

フォトキナ ワールド・オブ・イメージング

会期： 2014年9月16日～21日

会場： ドイツ連邦共和国 ケルンメッセ会場

記者発表

2014年4月14日（月） / 東京

ケルンメッセ 副社長（COO） カタリーナ・C・ハマ

ご出席の皆様

ケルンメッセを代表して、本年のフォトキナ 2014 の記者会見の始めに、皆様にご挨拶申し上げます。多数のご来場を賜りありがとうございます。フォトキナ 2014 のニュースや最新の動きについて、主催者側から直接情報を得たいとお考えであると存じます。

今年は写真技術が始まって 175 周年を迎えます。60 年以上に渡りフォトキナの時期には、ライン河畔の大都会ケルンは、写真ファンやそしてますます多くの映像ファンにとってのメッカとして姿を変えてきました。フォトキナは、世界の写真・イメージング業界最大の主要見本市として定着しただけでなく、その歴史と共に重要性を増し続けてきました。長年にわたってフォトキナは、イメージングの全ての世界を一堂に集めてきたのです。触れて、体験して、満喫できる世界、そしてイメージングの魅力を肌で感じられる世界です。そこでは画期的な技術が展示され、これからの方向を示す技術開発・動向に焦点が当てられます。メーカーや販売業界、プロユーザー、写真の魅力に取り憑かれたエンドユーザーを全て集めてしまうという点で、フォトキナは他に例をみません。フォトキナの中心は常に、写真への感動と感性です。ですからフォトキナは技術を展示するだけの見本市ではありません。プロとしてあるいは趣味で写真に関わる人は、誰一人として見逃してはならないイベントなのです。しかしながら、言葉では十分に説明することができませんので、写真と映像に話してもらいましょう。

皆様、フォトキナには個々の出展者のプレゼンテーション以上のものがあります。そこではイメージング全体を取り上げ、画像が社会で持っている感情的側面を強調します。また、フォトキナは業界にとって最も重要なビジネスプラットフォームでもあります。前回 2012 年、写真・イメージング業界の最も重要視されているフォトキナは、世界の 166 カ国から 18 万 5000 人の来場者が訪れ、その数は大きく伸びました。専門業者は 48%でしたが、そのうち 42%が国外からの訪問で、2010 年に比べて大幅に増加しました（+7.5%）。特に専門業者とイメージングのプロフェッショナルはアジア（+16%）、北米（+26%）、東欧（+40%）などの地域が大きく伸びました。またフォトキナ 2012 年には、73 カ国から 6000 人を越える報道関係者も訪れ、メディアでも最も重要な出来事となりました。新聞、インターネット、ラジオ、テレビなど約 2 万 2000 件の報道がなされ、世界中で 2 億人の人々が視聴したと言われていています。国際性がいっそう高まったこと、そして販売サイドから旺盛な発注があったことは、国際的にトップの取引の場としてのフォトキナの重要性を裏付けています。

フォトキナのこうした成果はしかし、企業が大々的に出展することなしには実現しなかったと思われます。と言うのは、これら企業の画期的な製品と新しい技術、これからの方向を指し示すコンセプトこそが、業界発展の原動力だからです。そうした中で、日本のイメージング産業は、長年にわたって、特に卓越した地位を占めています。2013年の1月から12月の間に、日本のメーカーは約6300万台のカメラを出荷しました。そのうちの2000万台以上と、多くがヨーロッパに輸出されています。これは日本のイメージング産業にとって、欧州市場が重要であることを示しています。それだけに、日本企業が長年にわたってフォトキナに忠実であってくださることを嬉しく思います。2012年は公式統計で日本から34社が出展していますが、多くの日本企業がヨーロッパ内の支社などを通じて参加したと述べていることから、実際は遥かに多くの日本企業が参加しているはずで、これほどまでにフォトキナとの一体感を持っていただいていることに、この場を借り、心から御礼申し上げます。

さて、本年のフォトキナは9月16日から21日までケルンで開催されます。既に展示スペースの貸し出しが非常に素晴らしい成果を見せていることを嬉しく思います。スペースの約80%が埋まっていて、今回はおよそ40カ国から1000社の出展を見込んでおります。イメージング世界の全ての分野で新製品が紹介される他、特にアクションカムやカメラでの動画撮影、カメラとカメラ、またはカメラとインターネットとの簡単な接続などに関連する展示が、メッセの最重要テーマとなるでしょう。

こうした中で今年私たちは、一般来場者に訴求する新しい道を進みます。「写真撮影は単なる技術ではない」をモットーに、メッセは5つのテーマ分野で分かりやすい構成になっており、これまで以上に写真の感情的側面を取り上げます。例えば「capture your world (あなたの世界を捕らえよう)」の分野ではカメラ・交換レンズ・エクイップメント、そして「light up your world (あなたの世界に光を)」の分野ではライト・フラッシュ・三脚などがご覧になれます。画像やデータの保存・接続・伝送関連は「share your world (あなたの世界を共有しよう)」の分野にまとめられています。「create your world (あなたの世界を創ろう)」はデータの入力・編集・加工に関連するテーマ分野です。フィニッシング・プリンティング・プレゼンテーション関連は「show your world (あなたの世界を見せよう)」という分野にあります。

さて、今年のフォトキナでの関心の的となるテーマについて見て行きたいと思います。まずは「ムービー」です。カメラマンはますます映画監督のようになりつつあります。カメラの動画撮影機能が強化されているからです。カメラとスマートフォンの動画機能では、ユーザーの使い方も製品の種類も、イメージング業界で圧倒的な広がりを見せています。

しかしながら、特定の状況下で特定の動画撮影をするには、静止画撮影のために最適化されたデジタル一眼レフやミラーレス一眼カメラを使う時、少し違った扱いが必要になります。そのため、これらのカメラでプロフェッショナルな撮影が簡単にできるように、全く新しいアクセサリ産業が生まれました。フォトキナは「フォトキナ・ムービー」を開催して、専門業者にも一般来場者にも、動画撮影のためのハード・ソフト・アクセサリなど幅広い製品を紹介するだけでなく、著名なキーノートスピーカー、ワークショップ、製品開発エキスパートを揃えて、フォトグラファーとビデオグラファーに動画撮影の始めから終わりまでをご覧ください。

アクションカムやスマートフォン、そして機器同士、またはインターネットとどう接続するかという問題が、もう一つの重点分野で、来るフォトキナでは注目的になるでしょう。これらのテーマはとりわけ今日の若い人々に、写真撮影への全く新しいアプローチを与えてくれます。今ほどたくさんの写真が撮られたことはかつてなく、それも子供の時から始まっています。このような動きのおかげで、イメージング業界には若い世代の枯渇という心配はありません。しかし、若い人々に「質の高い」写真撮影にも魅力を感じてもらうことが大切です。そのために、私たちは「フォトキナ・コミュニティ」に特別スペースを割きました。そこでは「be mobile, be in action, be connected」を掲げて、写真愛好家、若いあるいは若いフォトグラファー、またスマートフォン・ユーザー、アウトドア好きのために、心躍るようなアクションと舞台を用意しています。

つまりフォトキナ・コミュニティは写真に熱い思いを抱く人々と Web 2.0 ファンの出会いの場となるのです。そこは同時に、ソーシャルネットワーク、写真フェスティバル、団体、出版社、アプリ供給者、そしてトレンドテーマであるアクションフォトグラフィーとコネクティビティに関連する企業などの、プレゼンテーション・プラットフォームでもあります。スペース中央には、ワークショップ、撮影会、抽選会、講演、パネルディスカッションなど多彩なプログラムが繰り上げられるコミュニティ・ステージが設けられ、ホール内外に体験型のアクションスペースも多数予定されています。

この他フォトキナ 2014 では、Suite48Analytics 社と協力して、スマートフォンでの撮影を対象にしたプログラムを用意しました。同社はモバイル・フォトグラフィー分野のリサーチやアンケート調査を専門としており、毎年サンフランシスコで Mobile Photo Connect Conference を開催して大きな成果を挙げています。このパートナーと共に講演会、ワークショップ、セミナーを開催して、さまざまな観点から「スマートフォン現象」に迫ろうと思います。

プログラムはスマートフォン市場の最新ニュースとトレンドを紹介する「Mobile Photography News Announcements Roundup」で始まります。4 万 5000 を越える写真アプリのうち、知っておかなければいけないアプリ、持っていなければいけないアプリはどれか、それを有効に使うにはどうするか。これが私たちのコミュニティ・ステージでの講演のテーマです。「Integrating smartphone photography into your professional photography life」というタイトルのプレゼンテーションはプロユーザー向けで、スマートフォンを使った撮影と、画像加工の可能性と限界が示されます。自分でアプリを開発したいという方は、「I want to develop a photo app - now what?」というワークショップに参加されると良いでしょう。

フォトキナはイメージング世界の新しい動きのトレンドセッターです。そこで、新しい 3D 技術がどのような可能性をもたらすのかという点が、メッセのもう一つの重要なテーマとなります。新しい撮影技術に、より廉価な印刷技術とハイビジョンモニターが結びついたことで、画像の見方、そして現実の瞬間を空想上に留める方法に、全く新しい次元が拓かれました。フォトキナでは企業が 3D 撮影技術を備えた斬新なカメラシステムを展示し、撮影された画像を映す完璧なモニターを紹介し、最新の 3D 技術で表現されたモデルがどれだけ素晴らしいかライブでご覧いただけます。これと関連して、当然 CGI、Computer Generated Imaging も忘れてはなりません。2012 年には 21 社が出展し、フォトキナ 2012 のレベルの高い特別な分野として確立しました。私たちは当然、本年もこれを継続して参ります。

同じように併催プログラム Highlight も継続します。これは超望遠レンズ産業に向けたもので、「遠くを見るフォトキナ」というテーマです。フォトキナ最大の呼び物のひとつで、超望遠レンズに関心のある来場者も、プロカメラマンやアマチュアカメラマン、皆が惹き付けられます。遠くを見る対象は今回も猛禽類で、中でもワシは翼を広げると 2.3 メートルにもなる大型の鳥です。堂々たるワシの鮮やかな飛翔は、超望遠レンズで舞台から手に取るように観察でき、フォトキナ会場の中央広場に来場者を惹き付けます。一羽のワシにはアクションカムを付け、空からの映像を直接ライブでスクリーンに映し出す予定で、息を飲むような光景を見せてくれるでしょう。

このようにフォトキナ 2014 は、改めて世界のイメージング市場の全体像をご覧に入れます。こうしてフォトキナは、多種多様な全ての画像メディア、画像技術、画像市場を幅広く紹介する、世界唯一のイベントであり続けます。ただし、フォトキナは写真・イメージング業界のテーマ全体を扱うに留まりません。来場者に関しては、特定のターゲットグループのみに的を絞っている他の見本市と異なり、フォトキナは画像に関わる全ての人、つまり販売やイメージングのプロから、アマチュア、エンドユーザーにいたるまで視野に捉えています。

プロユーザーには「フォトキナ・プロフェッショナル・フォーラム」が用意されています。今年の重点テーマは「写真を通して経済的成功を手に入れ！」です。内外の著名講演者が、マーケティング・トレンド、直接販売、画像文化、画像の法的側面、技術、成功戦略、投資・資金調達コンセプトなどについて、直接聴衆に語りかけます。また他の仲間たちが写真の挑戦的課題に、どう取り組んでいるのか知りたい人には、ステージで繰り広げられるいくつものライブ・コンテストで、その様子をご覧いただけます。ステージ上に複数の写真家が登場し、課題として出された対象を、プロの仲間たちの目の前で撮影し、比べるというイベントが、会期中に何度も行われます。

フォトキナは世界中の写真・イメージング販売業界にとって、一年で最も重要な行事です。この非常に重要なターゲットグループに対して、フォトキナは本年も多岐にわたるサービスを提供します。時間をかけずに簡単に登録できるオンライン・チケットショップや来場者向けの特別旅行企画、世界の市場動向について最新の情報を得られる GfM 市場説明会など、専門業者の方々にはフォトキナ 2014 でも、これまで通りの質の高いサービスと正確な情報が確実に提供されます。加えて、世界各国から訪れる専門業者には、インターナショナル・バイヤーズラウンジが、効率よく会場を回るための快適な拠点となります。会期中、常時更新されてゆく最新の情報を確認したり、次の商談の準備に利用できますし、専門知識を備えたメッセ・チームの協力でアポイントメントの調整や、商談相手を紹介してもらうことができます。利用時間は毎日 9 時から 19 時まで、つまり会場が開く 1 時間前からと、会場が閉まってから 1 時間後までとなっています。また会期前にも、オンライン・マッチメイキングを使ってメーカーと連絡をとることができますので、商談スケジュールをより効率的に計画することができます。

ご出席の皆様。冒頭にも申し上げましたように、画像への感動が常にフォトキナの中心にあります。2014 年もまた、ホール各所に設けられた著名な写真家による多くの写真展で、この感動を感じていただけたと思います。ドキュメント写

真展、写真デザイン展、報道写真展など多くの写真展によって、イメージング産業の創造的な「最終成果物」が何であるかが示され、改めて世界の関心を惹き付けることでしょう。

しかしそれはメッセ会場だけではなく。会場外でも写真というテーマは至る所に存在します。フォトキナが開かれる9月、ケルンは「画像一色に染まる」からです。4回目となる「フォトキナ：ケルンは撮影する！」というイベントを通して、メッセ会場の枠を超えて、新しい層に画像の魅力を知ってもらい、また全ての市民と訪問者に、自ら積極的に、創造的に写真と関わる機会を提供する考えです。ケルンの地元企業や組織と協力して、写真に魅力を感じる街の全ての人々に、ワークショップ、撮影会、写真展など、さまざまなプログラムを用意しています。皆様が、本当に一見の価値のあるこうしたイベントを、実際にご覧になる時間を取れるように願っております。それだけの意味があるとお約束できますし、もちろんフォトキナ2014にご来場いただいても、同様にご満足いただけることをお約束します。

またケルンという街には少なからず名所がございます。見本市の訪問と観光を組み合わせる企画も良いと思います。ケルン大聖堂はゴシック様式の建築物として世界最大の教会で、ライン河畔の大都会ケルンの中心にあると同時に、シンボルでもあります。美術館・博物館は36を数え、100を超える画廊も加わり、ケルンは国際的な芸術の街と評されています。幅広い展示品はローマ時代や中世、ヨーロッパ圏外、そしてコンテンポラリーな現代芸術に至ります。旧市街地は歴史的な雰囲気が魅力的で、古くからの家並が昔のままの路地へと誘います。数えきれないほどのビール醸造所、飲み屋、レストランが一時の休息をと語りかけます。地元のケルシュという新鮮な生ビールを堪能し、名物料理「ハルヴァー・ハーン（チーズのオープンサンド）」を味わうのも良いでしょう。国際色豊かな繁華街では、同じ言葉を話す人に出会うこともまれではありません。

皆様に是非お越しいただきたいと思っておりますので、ここで交通面でののご案内もさせていただきます。日本からお越しになる専門業者の方々は、ケルンメッセ・オンラインを通じて、事前に移動交通機関や宿泊を予約することができます。ヨーロッパ交通網との接続が良いケルンには、ケルン／ボン空港、デュッセルドルフ空港、フランクフルト空港から簡単に、短時間で移動していただけます。ケルンメッセは75のホテルと契約を交わしており、十分な部屋数が確保されています。当然のことながら皆様には、そして本日ご出席の方以外で、ケルンのフォトキナを訪れようとお考えの皆様にも、日本にいるケルンメッセ・スタッフが、いつでもご助言・ご支援をさせていただきます。

来る9月には、ケルンのフォトキナでまた皆様を歓迎できることを楽しみにしております。
ご清聴ありがとうございました。

【お問合せ先】

ケルンメッセ株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-13-6 恵比寿ISビル5F

TEL：03-5793-7770 FAX：03-5793-7771

e-mail: kmjpn@koelnmesse.jp / URL: www.koelnmesse.jp